

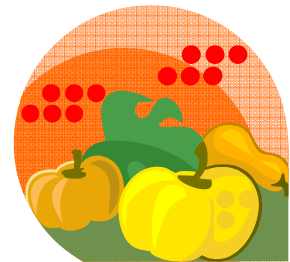
平成24年11月1日(木)発行【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第102号

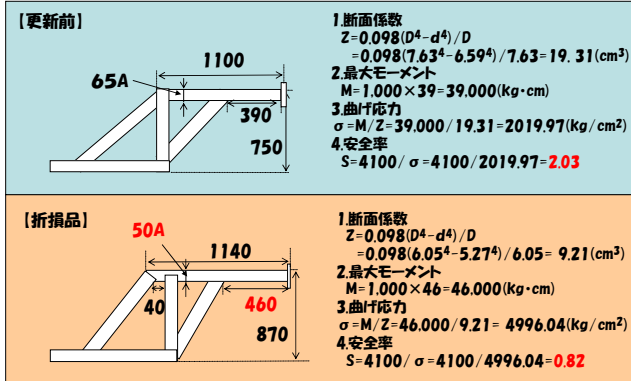
【目次】

1. 技術検討会(三菱化学物流)
2. 環境税について
3. 派遣法改正について
4. 要員平準化システムについて
5. 菱化ロジテック社 ~鹿島支店紹介~
6. 国際物流総合展2012 参加レポート
7. 国際包装展 参加レポート



1. 技術検討会(三菱化学物流)

2012年9月11日当社本社において技術検討会を開催しました。全社技術力の質的向上と情報の共有化、及び若手の育成を目的として毎年開催している本会議も36回を数えます。今回は初めて社長の石川も出席し、よりオープンな検討会の開催となりました。発表内容は若手を中心とした技術検討内容の報告や、経験豊富な管理職による技術紹介などがありました。具体的内容は以下の通りです。
①荷役設備不具合対応&フォークリフトアタッチメント製作検討 ②フォークリフトアタッチメント設計基準検討 ③紙袋ミシン目飛び検知装置開発検討 ④フォークリフトバッテリーにおける劣化要因分析と延命検討 ⑤油槽所タンク耐久塗料検討 ⑥LED照明検討及び省エネ効果 ⑦濃硝酸コンテナ漏洩防止検討 ⑧コンプライアンス対応紹介(電機事業法、建築基準法など) ⑨包装ラインのオートチェッカー導入検討
今回は例年に比べて新規技術開発テーマへの取り組みや環境対応への技術的支援など「新しい技術検討」が増え、多岐に亘るテーマとなり、最後まで活発な議論が飛び交いました。会議の冒頭には、技術本部の田口本部長が挨拶として技術部門の役割につき講話を行いました。また、石川社長からは「化学品物流」でお客様と社会に貢献するための技術改善活動を今後とも鋭意チャレンジしてほしいとのコメントがありました。次回以降は、是非技術部門以外の出席者を増やしながら内容の充実を図っていきたいと思います。



* 発表資料の一部(フォークリフトアタッチメント検討資料)

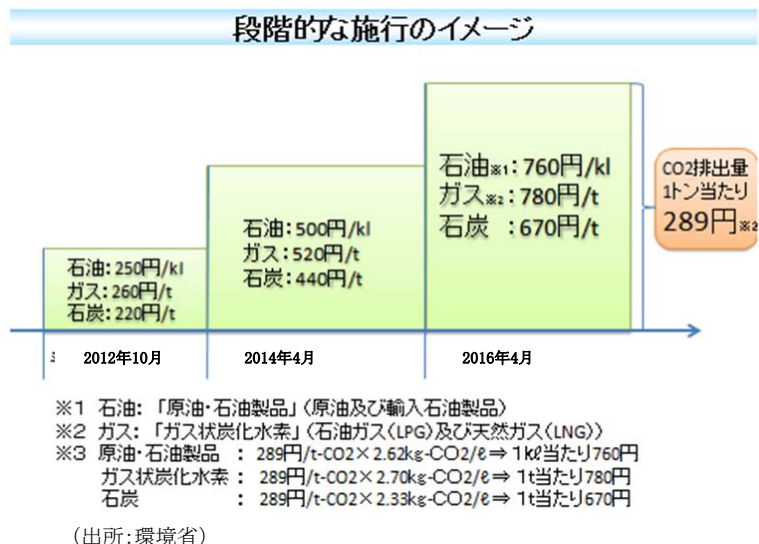
2. 環境税について

低炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの導入や省エネ対策をはじめとする地球温暖化対策(エネルギー起源CO2排出抑制対策)を強化するため、2012年10月1日から「地球温暖化対策のための税」(環境税)が段階的に施行されました。

具体的には、石油・天然ガス・石炭といったすべての化石燃料の利用に対し、環境負荷(CO2排出量)に応じて負担を求めるものです。

この環境税の施行により家計への負担を勘案し、今後皆様のご家庭でもエアコンの温度設定やLED照明など省エネの取り組みをされていることと思います。

この環境税は我々にとっても負担が生じますが、この施行をプラスに捉え今後は鉄道、内航海運などを利用した輸送モードの更なる活用を実施し、CO2の低減を目指すことでお客様並びに社会に貢献できるよう取り組んでいきたいと思っております。



3. 派遣法改正について

2012年10月1日、労働者派遣法改正法が施行されました(一部は3年後の2015年10月1日施行)。今回の改正のポイントは、①事業規制の強化、②派遣労働者の待遇改善、③違法派遣への対処の3点で、それぞれの主な内容は以下のとおりです。

①事業規制の強化

- ・日雇派遣(日々又は30日以内)の原則禁止
- ・グループ企業内派遣の8割規制
- ・離職労働者の離職後1年以内の派遣労働者としての受け入れ禁止

②派遣労働者の無期雇用化や待遇の改善

- ・一定の有期雇用の派遣労働者につき、無期雇用への転換推進措置を努力義務化
- ・派遣労働者の賃金等の決定にあたり、同種の業務に従事する派遣先の労働者との均衡を考慮
- ・マージン率などの情報提供の義務化
- ・派遣労働者に対する派遣料金の額の明示
- ・労働者派遣契約の解除の際の、派遣労働者の新たな就業機会の確保等の措置を義務化

③違法派遣に対する迅速・的確な対処

- ・違法派遣の場合、派遣先が違法であることを知りながら派遣労働者を受け入れている場合には派遣先が派遣労働者に対して労働契約を申し込んだものとみなす(2015年10月1日施行)
- ・処分逃れを防止するため労働者派遣事業の許可等の欠格事由を整備

労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律

正式名の変更

労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律

政府案に原則禁止として盛り込まれていた登録型派遣・製造業務派遣については、今後の検討事項となりましたが、法律の正式名や目的規定にも「派遣労働者の保護」が明記され、今回の改正の目的が、派遣労働者の保護や待遇改善であることが明確になっています。

4. 要員平準化システムについて

今回は、三菱化学社 水島事業所・開発研究所・先進技術開発室・最適化グループによる「要員平準化」問題への取り組みをご紹介します。

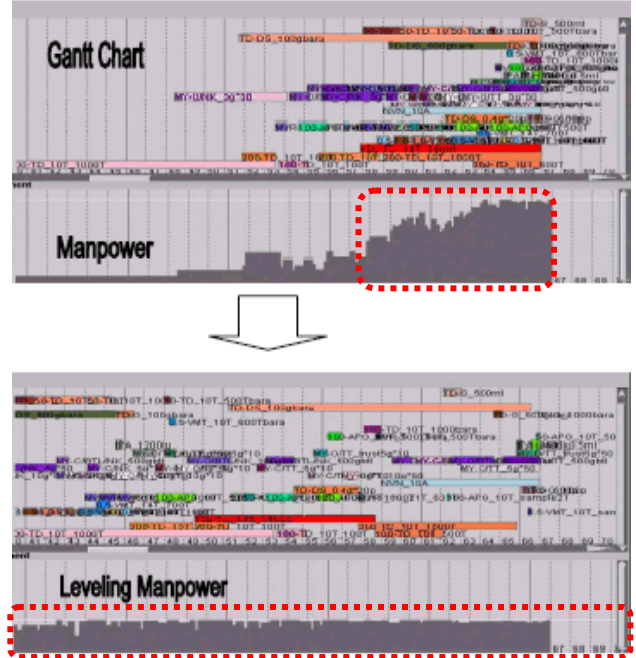
同グループでは最適化技術、シミュレーション技術を用い 【要員平準化システムのイメージ】

- ① 作業員毎のスキル
- ② 作業員同士のチームの生産性(能率)

といった現場での複雑な条件を加味し、必要最低限の要員で、平準化された要員配置や作業計画を策定するシステムを検討、開発しています。

従来は、演算用のソフトウェアが非常に高価であったため、このテーマに取り組むにはハードルが高かったのですが、近年の技術進歩により、同様の検討が容易にそして安価に実施可能となりました。更に、このシステムで、作業員のスキルアップ計画の立案にも活用することが可能と考えられております。

当社では、こうした最適化技術と、従来のLIFE手法を組み合わせることにより、更なる物流効率化検討の可能性を模索しています。



5. 菱化ロジテック社 ～鹿島支店紹介～

菱化ロジテック社鹿島支店は、当社鹿島支社内に事務所を設置し、倉庫グループ・生産物流グループ、輸送グループ、ならびに筑波営業所の4部署を所管しています。

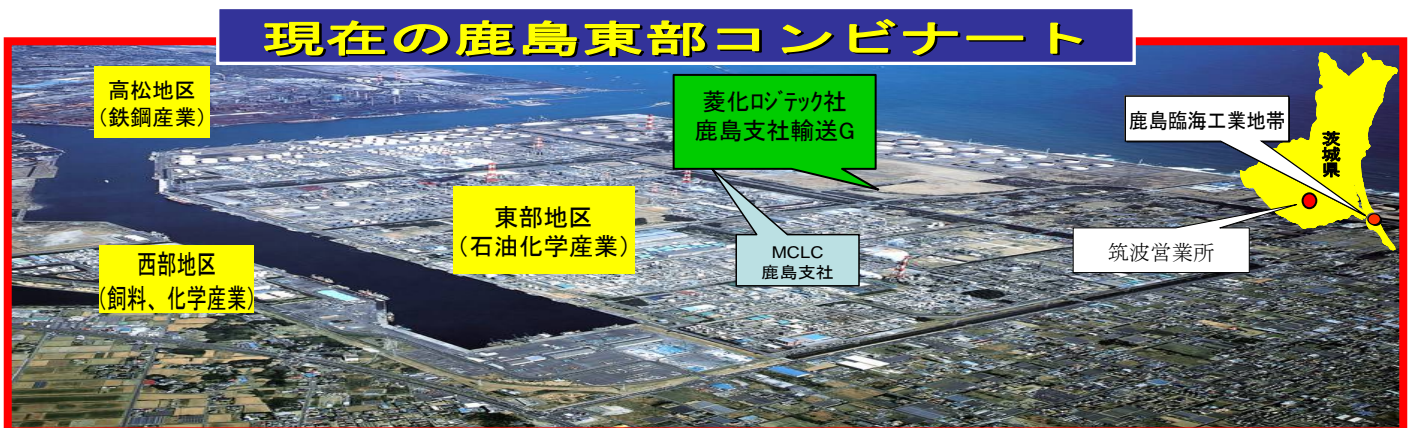
倉庫グループは、延べ床面積約31千㎡におよぶ当社鹿島物流センターの入出荷作業を担当しており、フォークリフトによる荷役作業をメインの業務としています。

生産物流グループは、三菱化学社鹿島事業所内で液体製品をドラム缶やローリーに充填する作業や棧橋での船積み荷上げ作業を行っています。

輸送グループは、大型車10台、中型車3台のトラックを保有し、フレコンバッグや紙袋に充填された樹脂製品をメインカーゴとし、近隣はもとより、北は福島、西は中部方面に輸送しています。

鹿島から西に約70km離れた筑波営業所では、三菱化学社筑波事業所で生産される樹脂シートの主原料をほぼ全量輸送しているほか、樹脂シートの輸送を担当しています。

菱化ロジテック社鹿島支店は、総勢62名で、経営理念である「安全で安心な物流サービスの提供」を目指して、日々奮闘しています。



6. 国際物流総合展2012 参加レポート

2012年9月11日～14日に東京ビッグサイト(東京国際展示場)で行われた「国際物流総合展2012」に参加して来ました。

アジア最大級！国内唯一の物流・ロジスティクスの専門展示会であり、4日間合計で約130,000名の来場者があったそうです。

2年に1回開催される本展示会は、今回で記念すべき10回目を迎え最新の物流システム機器、ソフトウェア、サービス等、411社もの出展がありました。

ロジスティクスの高度化へ向け、活発な情報発信が行われる催しとして、産業界から高い評価を得ており、様々なセミナー及び各ブースでは、産業の更なる活性化を目指し積極的な意見交換がなされていました。

企業活動の根幹をなすロジスティクスの高度化・効率化が、環境・エネルギー・グローバル展開、あらゆる面で経営戦略上の重要課題であり、物流への関心がうかがえました。

次回開催は、2014年9月になります。

次号では、本展示会の詳細についてご紹介させていただきます。



7. 国際包装展 参加レポート

2012年10月2日～5日までの3日間、東京国際展示場(ビッグサイト)で開催された2012東京国際包装展に参加してきました。

本展示会は、さまざまな業界で使用されている包装資材・容器、包装機械を中心に、調達から生産、物流、流通、販売、消費、廃棄・リサイクルに至るまでのあらゆる分野を網羅した世界有数の国際総合包装展です。特に近年は投資意欲の旺盛なアジア地域からの来場者が増加しており、中国・台湾企業ブースなどもあり、グローバルな展示会でした。

また、最新の包装の情報発信にとどまらず、日本の包装技術向上のためのセミナーや、イベントコーナーがとても印象的でした。

トレーサビリティシステム、2次元コード、RFID、流通・物流ITシステム、保管機器、搬送機器、仕分け・ピッキングシステム、搬送車両、パレット・コンテナ、物流資材などの流通・物流システム機器やサービスのコーナーがありました。

特に緩衝材としてのエアバック包装機械の出展が多く、ガラス、ビンなどの衝撃に弱い製品の輸送においては、これらの緩衝材を使用することにより、安全に輸送することが可能となります。

物流関連の最新テクノロジーを肌で感じる事ができ、とても収穫の多い展示会でした。



ソリューション営業部 板垣 智行

先月、京都大学の山中教授が生理学・医学分野では日本人として2人目となるノーベル賞を受賞しました。テレビ等でも話題になったのでご存じの方も多いかと思いますが、山中教授らが研究しているiPS細胞は、再生医療や創薬研究等で非常に大きな期待が寄せられています。

にわか仕込みの知識ですが、iPS細胞とはあらゆる細胞に分化が可能、いわば「可能性の塊」とも考えられるようです。巷では日本凋落論等も囁かれ暗い話題の多い中、まだまだ日本には底力がある！iPS細胞のように大きな可能性を秘めている！と、久しぶりの明るい話題に大いに勇気付けられました。